

CSRの取り組み

東京スター銀行は、企業としての社会的責任を果たし、社会・お客さまとともに発展していくため、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。そして、これらの活動を実施する際の指針となる基本方針として、「社会への貢献」「次世代を担う人材の育成」「ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供」の3項目を掲げています。

CSRの基本方針

社会への貢献

持続可能な社会の実現のため、役職員によるさまざまな活動を行い、お客さま、地域社会、地球環境などへ貢献するとともに、役職員が生き生きと働き、よりお客さまと社会の役に立ち、社会とともに持続的に成長する会社となることを目指しています。

<取り組み>

- ★ すべてのお客さまに「満足」いただける銀行を目指す
- ★ 環境に配慮した取り組み
- ★ 行員参加の地域社会への貢献

次世代を担う人材の育成

未来の社会がより豊かなものとなることを目指して、次世代を担う若者や子どもが、将来、希望を持って自立した人生を歩んでいけるよう、金融教育や、貧困・虐待などの社会課題解決に向けた活動を行っています。

<取り組み>

- ★ 子どもの貧困解決への取り組み「東京スター 子ども応援プロジェクト」
- ★ 子ども・若者のための金融教育「お金のスタートレーニング」
- ★ 子ども虐待防止「オレンジリボン・キャンペーン」

ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供

「ダイバーシティ推進は成長の源泉」であり、多様な人材が生き生きと働くことが、組織の活性化や新たな価値創造につながると考えています。お客さまのさまざまなニーズにお応えするべく、多様な視点をビジネスに反映させ、より良いサービスを提供することを目指しています。

<取り組み>

- ★ ダイバーシティ組織風土の醸成
- ★ ワークライフバランスの推進

関連するSDGs



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※ [SDGs]: Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。2015年9月に国連サミットにおいて採択され、国連に加盟する193カ国すべての国がその目標達成に向けた取り組みを行うことが決定している。2030年までの15年間で、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにしないことを確保するための取り組みとして、17の目標と169のターゲットから構成されている。

社会への貢献

当行は、行員や行員の家族に、ボランティア活動などの社会貢献活動に参加する機会を提供し続けることにより、自ら考え、より自発的に仕事に取り組む姿勢を持った人材の育成や働き甲斐のある社風の醸成を図っています。

2020年は、新型コロナウイルスへの対応のため、以下の取り組みを行いました。

● 児童養護施設等へマスクを寄付

2020年5月、新型コロナウイルスの感染が広がり、マスク不足が問題となっていた状況で、児童養護施設等においても子どもや施設職員のマスクが不足していました。

行員からの提案により、マスクを集めて提供するチャリティ活動が行われました。最終的に約500枚のマスクが集まり、その多くは行員による手作りによるものでした。

NPOに寄付されたマスクは東京都社会福祉協議会児童部会に一齐に集められ、合計で4,800枚のマスクが希望する施設へ配布されました。



● お客さまとの協業により、子ども食堂へ食品を提供

新型コロナウイルスの影響で経済的に不安定な家庭が増え、子ども食堂のニーズが高まる一方で、感染防止のため、開催の中止や参加人数の制限など、子ども食堂では通常の開催が難しい状況が続いていました。

2020年7月、新型コロナウイルスの影響を受けた子どもたちの食を支援するため、行員から寄付を募り、集まった約33万円で、レトルトのカレーやお味噌汁、お菓子等、個別配布しやすい食品を、少しでも当行のお客さまのお役に立てるよう幅広い食品を扱うお取引先（食品関連会社）から購入し、7つの子ども食堂に提供しました。



そのほか、2020年7月には、「東京スター銀行 新型コロナウイルス対応NPO寄付プログラム」として、新型コロナウイルス感染症やその対応による影響を特に受けている子どもや困窮状況にある家庭等を支援する非営利団体へ寄付を行いました。また、2020年9月には、新型コロナウイルスによる自粛生活により、平時に増して献血不足が深刻化したことから、行員への啓発活動として献血を促進するキャンペーンを行いました。

次世代を担う人材の育成

当行では、困難な状況にある子どもの支援として、貧困や虐待防止等の社会問題の解決に向けた取り組みを行ってきました。

現在、日本で増加傾向にある「子どもの貧困」においては、単純な経済的困窮だけでなく、さまざまな不利を同時に抱えているがために、次世代への貧困の連鎖が大きな問題となっています。当行では、子どもの貧困問題解決のための「東京スター 子ども応援プロジェクト」を立ち上げ、以下の3つの活動を行っています。

東京スター 子ども応援プロジェクト

● 社会的養護施設出身者等への奨学金(東京スター銀行奨学金)

児童養護施設出身者だけでなく社会的養護(自立援助ホーム、里親家庭など)の生活経験がある若者を対象にして、一人あたり年間50万円(最大200万円)を、7名の学生に対して提供しています。金銭面での支援に加え、ボランティアが月に1回奨学生と会い、話を聞くというメンター制度を設けることで、頼る相手の少ない子どもたちを精神的にも支えています。第二期となる5月からの募集では、昨年度を大きく上回る76名の応募がありました。

● シングルマザーのための就労支援

新型コロナウイルスによるシングルマザー家庭への影響は甚大で、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの2020年4月の調査によると、収入が減ったひとり親世帯は59%、収入がなくなった世帯は11%にのぼります。

当行では2019年10月よりオフィスワーク就労支援プログラムを行っており、第二期となる2020年は18名の受講者を対象に、オンラインを中心とした講座を実施しました。本プログラムでは、シングルマザー向けにビジネスマナー・PCスキルなどのキャリアアップ講座とキャリアカウンセリングを一体にして提供しています。



● 子ども食堂への活動資金支援

子どもたちの成長環境が温かく、豊かなものになるように、地域の親子に食事を無料または低価格で提供し、温かい居場所づくり・交流拠点づくりを推進する子ども食堂を支援しています。

2020年は新型コロナウイルス対応のため、食品を対象者に渡すフードパントリーの活動を中心に資金を支援しました。

さらに、行員から児童書・絵本や文房具を募り、希望した団体に寄贈するチャリティ活動も行いました。

子ども食堂が地域に定着し、より多くの親子を支援していけるよう、当行は今後も子ども食堂の取り組みを応援していきます。



ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供

● D&Iオンライン座談会をスタート

当行では、コロナ禍の新しい生活様式でさまざまな不安を抱える行員同士のつながりを増やすことや、誰もが気軽に新しい学びの機会を持つことを目指し、新しい試みとして非対面コミュニケーションによる「D&I(*)オンライン座談会」をスタートしました。'Moving on to new normal' を軸に毎週異なるテーマで、テーマに即したメインスピーカー（役員、部支店長、子育て中の行員、外国籍行員、障がいのある行員等）を迎え、Microsoft TeamsのTeams会議でオンライン座談会を開催しています。

D&Iオンライン座談会テーマ	開催したタイトル例
経営層ダイバーシティインタビュー	「経営層ダイバーシティインタビュー」
銀行業界、各部署への理解を深める	「コミュニケーションセンターが取り組むデジタルトランスフォーメーション(DX戦略)」 「お客さまとのリレーションシップ構築と私のキャリア」 「銀行業界を取り巻く環境についてみんなで考えてみよう！～雑誌の特集記事から見えてくること～」
産前産後休業、育児休業、子育て	「育休復職メンターカフェ」(育休休業復職直後の行員向け) 「みんなで話そう！ 新型コロナで変化した仕事と家庭、両立環境」(子育て中の行員向け)
女性管理職、女性のキャリア	「女性管理職 Informal Meeting」
外国籍行員ダイバーシティインタビュー	「外国籍行員ダイバーシティインタビュー」
障がいのある行員と障がいへの理解	「音のない世界を知る(聴覚障がい理解&手話勉強会)」

(*) D&I=ダイバーシティ&インクルージョン

(多様な人材が活き活きと働くことで、組織の活性化や新たな価値創造を推進する取り組み)



自席・会議室から自由なスタイルで参加可能



休憩スペースモニターで中継

「D&Iオンライン座談会」は、主に昼休憩時間に開催し、拠点・テーマに捉われず毎週30名～80名の行員が参加しています。自ら手を挙げ参加しているため学びや気づきも多く、それぞれの職場に持ち帰り業務に活かすことができ、参加者の多くから業務へのモチベーションが高まったとの声も寄せられています。

当行は拠点が本社、事務センター、全国の支店に分かれており、これまで全行員向けのイベントは開催が困難でした。また、対面式の座談会では、テーマに関心のある行員のためのコミュニティ作りに留まってしまうのが課題でしたが、オンライン開催に変更したことで、全行員が気軽に参加でき、より多くの行員が新たな分野、業務、また多様な経験を持つメインスピーカーのバックグラウンドにまで触れることができるようになりました。さらに、部門・部署を超えて、企画テーマに関わりのある行員が協力して座談会を行う試みもスタートし、より多くの行員が企画・運営、プレゼンテーションをトレーニングできる貴重な場ともなっています。

「D&Iオンライン座談会」は、当行のダイバーシティ推進活動が目指す、多様な人材が互いを認め合い、受容するインクルージョン(包括・包含)の実現に向け、他部署の取り組みや当行に在籍する人材の多様性を知る機会、役職・担当業務に捉われず意見を交わし、新たなアイデアが生まれる機会となりつつあります。今後もさまざまなテーマで開催し、当行の多様性を活かす取り組みとして推進してまいります。